

第4回小島嶼開発途上国（SIDS）国際会議
穂坂外務大臣政務官ステートメント

冒頭

御列席の皆様、

日本の外務大臣政務官の穂坂泰です。この重要な会議での発言機会に感謝します。

この会議をここセント・ジョンズで開催するために尽力された、国連及びアンティグア・バーブーダ政府を始めとする関係者の皆様に敬意を表します。

最近の地滑りの被害を受けたパプアニューギニア政府及び国民に対し、謹んでお見舞い申し上げます。日本は、友人であるパプアニューギニアと共にあり、必要な支援及び協力を惜しまない考えです。

日本の SIDS への協力方針

SIDS の長年のパートナーである日本の考え方と取組について、3 点申し上げます。

第一に、日本の SIDS への協力方針についてです。

今日、人間の安全保障を確保すること、すなわち、すべての人々が恐怖と欠乏から自由になり、尊厳をもって生きることができる社会を実現することの重要性は一層高まっています。日本自身も約 14,000 の離島を抱える島国であり、また地震や津波、台風などの自然災害に見舞われやすい環境にあります。こうした背景を踏まえ、日本は、自身の経験や技術も活かしながら、SIDS のニーズを踏まえた協力を数多く実施してきました。開発協力大綱に基づき、所得水準が相対的に高い SIDS に対しても、各国の開発ニーズの実態や負担能力、小島嶼国特有の脆弱性等に鑑み、必要な協力を引き続き行っていく考えです。

日本の具体的な協力

第二に、日本の具体的な協力の例を御紹介します。

気候変動への対策においては、日本は 2025 年までの 5 年間で官民合わせて最大計 700 億ドル規模の支援を行うとのコミットメントを着実に実施しているほか、緑の気候基金（GCF）の第 2 次増資の機会に最大 1,650 億円の新たな拠出を行うことを表明しました。また、気候変動の悪影響に特に脆弱な途上国を支援するロス＆ダメージに対応するための基金の立ち上げ経費として、1,000 万米ドルを拠出したところです。なお、気候変動による海面上昇の影響に関しては、日本は国連海洋法条約（UNCLOS）によって設定された既存の基線は維持されるとの立場です。

防災については、仙台防災枠組に沿い、災害リスク削減に向けた人材育成や災害情報の共有体制強化などの協力を行っています。

海洋については、海上保安機材の供与、水産資源管理能力の強化、水産関連施設・機材の供与、IUU 漁業対策支援、カリブ地域の水産業・観光業の妨げになっているサルガッサム海藻除去支援、プラスチックごみ対策などを通じ、自由で開かれた海洋秩序を実現するとともに、豊かな海を守り活かすための多面的な協力を進めています。岸田総理が「持続可能な海洋経済の構築に向けたハイレベル・パネル」のメンバーを務めるなど、日本は海洋をめぐる国際的な議論にも積極的に参加しています。

日本は、海洋国家として美しい海を守ることを重視しており、福島の大東日本震災からの復興を進めるために不可欠である東電福島第一原発からの ALPS 処理水の海洋放出については、関連する国際的な安全基準及び慣行に従って実施されています。日本は、引き続き国際原子力機関（IAEA）の継続的な関与の下で実施されるモニタリングの結果の提供など、継続的な情報共有や丁寧な説明を積み重ね、安心感を高めていきます。

パートナーシップの強化

第三に、様々なパートナーシップを強化することの重要性についてです。

SIDS の抱える課題の解決のため、日本の企業も取組を進めており、政府も支援しています。最近の一例として、世界の水問題の解決に取り組む日本のスタートアップ企業 WOTA（ウォータ）は、ここアンティグア・バーブーダで、革新的な小規模分散型水循環システムの普及に取り組もうとしています。日本の政府系金融機関である JBIC は、日本の銀行との協調融資の形で、この取組を後押ししています。

太平洋島嶼国においても、サモアの国際気候変動センター（PGCC）を拠点として、他のドナーとも連携しつつ、地域の人材育成等の協力を行っています。

結語

SIDS の強靱な繁栄を実現するため、日本は、今回の会議の成果文書である「The Antigua and Barbuda Agenda for SIDS (ABAS)」を指針として、SIDS のパートナーとして、次の 10 年も共に歩んでいく考えです。

本年、日本は、7 月に第 10 回太平洋・島サミット（PALM10）、8 月にアフリカ諸国との間で TICAD 閣僚会合を開催します。また、今年は日・カリブ交流年でもあり、今月には岸田総理が対中南米政策スピーチを発表し、環境、気候変動など人類共通の課題の克服に共に取り組んでいくことを提唱したところです。これらの地域毎の枠組においても再び SIDS の皆様とお会いし、更に交流と協力を深められることを楽しみにしています。

御静聴ありがとうございました。

（了）